

～ 大淀周辺の最上川を描く ～

佐藤悦夫 油絵展



三ヶ瀬・岩礁の頃 2007 F80 三ヶ瀬

企画展示室 会期

2016 12月16日(金) - 2017 1月17日(火)

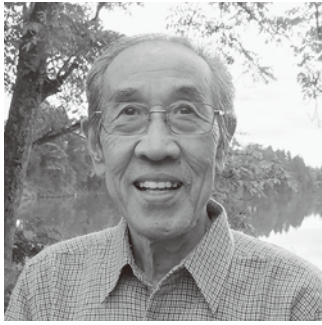


最上川美術館
真下慶治記念館

〒995-0054 山形県村山市大字大淀1084-1 TEL.0237-52-3195 FAX.0237-55-2152 E-mail mogamigawa@city.murayama.lg.jp

開館時間／午前9時～午後5時 休館日／水曜日(祝日の場合は翌日) 入館料／大人300円 小・中学生150円 www.massimo-k.org/p_murayama

佐藤悦夫 油絵展



大淀という地名の由来は、「川が大きく淀んでいる所」と言われますが、私にとっては、全く別の意味があります。

私の父は隣地区の長島に生まれ育ちました。その関係で、私と姉や妹、弟は小さい頃、父親から毎年春のお祭りに連れていってもらい、大淀への途中にある「お羽黒山神社」に上り、お参りをしてくるのです。

子どもの私たちにとって、山頂からの眺めを楽しむことももちろん、下の道路沿いの出店でうまいものを買って食べることも楽しみのひとつでした。

そして、口につまみながら出店の後ろを見ると、最上川の巨大な流れが岩にぶつかり、その様は、青と白のコーラスとなって聞こえてくるのです。この時の光景が今もお私にとっての「大淀」を意味するものとなっております。

大淀のアトリエで絵を描くようになって数十年経ちますが、年のせいか、かつてのように続けることが疎くなりました。体の調子を考えながら、事に当たる工夫が大事だと思えるようになってきています。

また、大淀に行けば、隣り合わせにある、故真下、故長野両恩師のアトリエの前を通ります。その度に、山形大学教育学部で受けたご指導をなつかしく思い出しているこの頃です。

今日は、お忙しい中、皆様に足を運んでくださり感謝の気持ちでいっぱいです。皆様のお気持ちが少しでも和む一助になれば幸いです。

村山市榎岡二日町 在住



廃趾 1994 F50 尾花沢毒沢



淀の盤 2005 F50 大淀



大淀の春 2007 F20 大淀



葉山の残雪 2008 F6 大淀



三ヶ瀬の春 2014 F80 三ヶ瀬

常設展示室 最上川Ⅴ 2016 11月11日(金) - 2017 1月17日(火)

最上川美術館・真下慶治記念館

〒995-0054 山形県村山市大字大淀1084-1 TEL.0237-52-3195 FAX.0237-55-2152 E-mail mogamigawa@city.murayama.lg.jp

開館時間／午前9時～午後5時 休館日／水曜日(祝日の場合は翌日) 入館料／大人300円 小・中学生150円 www.massimo-k.org/p_murayama